

海外研修を終えて

山形大学理学部物理学科 1 年 糠塚元気

私は 3 月 2 日～15 日までの約 2 週間をスイスのジュネーブにある CERN（欧州合同原子核研究機関）で研修をしてきた。CERN とは主に粒子加速器を使い素粒子の構造などを研究している国際機関である。私はここで山形大学が参加している COMPASS 国際共同実験を中心にいろいろな加速器や研究グループで研究内容を学び実習をしてきた。また、国連欧州本部など他の国際機関の見学をし、世界が動いている現場の空気や歴史を肌で感じてきた。

CERNでの研修では COMPASS, ATLAS, ALICE などを見学してきた。これらの研修では研究の目的や原理、加速器の種類やその役割などを日本語と英語を交えながら学んだ。特に COMPASS については特別にロシア人の Yuri 先生から英語で特別講義を受ける事が出来、非常に有意義であった。また私は、研究の内容やその興味深さを知ったことはもちろんだが、それ以上に研究の表面しか理解できないことへの歯がゆさを感じもっと学びたいと強く思った。確かに私はまだ学部 1 年生であるから最先端物理を理解できないことも当然ではある。ましてや英語での説明はなおさらである。しかし、私は説明していただいた方々の生き生きとして楽しそうな様子や様々な人たちと意思疎通できることの素晴らしさを知った。そして私も彼らのように研究をしてみたい、もっといろんな人とコミュニケーションをとりたいと強く感じ、これからの学習に対するモチベーションを高める事が出来た。

私は大学で 1 年間勉強してきて気づいたことがある。それは、高校では受験のために全員が勉強を自然と強いられていたが、大学ではそれが無いということだ。つまり大学では勉強の方法よりもまず始める事が大切であり、それが一番難しいということである。大学では何よりも「やる」ことが大事だと思う。

この貴重な経験を通して、私は機器や施設の巨大さ、現場の雰囲気、そこで受けた感動などを 1 人でも多くの人に伝えたいと思う。それが皆に伝わり、今以上に切磋琢磨して勉強にはげみ、有意義な大学生活を送ってきたいと思う。



